

News Letter

Vol.
32



CONTENTS

◆ご挨拶	P.2・3	◆正会員・賛助会員寄付者紹介	P.12・13
◆ひょうご被害者支援センターの活動	P.4	◆感謝	P.14
◆2018年度 支援活動報告	P.4	◆財務報告	P.15
◆事務局長就任にあたって・相談員の声	P.5	◆身近にできる社会貢献活動	P.16
◆人材育成	P.6	◆編集後記	P.16
◆広報・啓発活動	P.7		
◆命の大切さを学ぶ授業 活動報告	P.8・9		
◆自動販売機設置	P.10		
◆ホンデリング／ワンクリック募金	P.11		



ひょうご被害者

検索





ご挨拶

ひょうご被害者支援センター 理事長 井 関 勇 司

皆様方には、ひょうご被害者支援センターへのご支援・ご協力をたまわりまして、誠にありがとうございます。おかげをもちまして、当センターはますます拡大し、充実した被害者支援をすることができています。

2018年度を振り返ってみますと、まず、相談件数が急増しました。「ひょうご性被害ケアセンター『よりそい』」が2年目を迎えると共に、刑事事件の直接支援活動も性犯罪事件が68%を占めております。広報活動や相談員の努力により、「よりそい」が認知されるようになったためと思われますが、まだまだ氷山の一角に過ぎません。

また、財政基盤の安定化を図っております。当センターは兵庫県、神戸市からの補助金・委託金や日本財団預保納付金支援事業からの助成金などに大きく依存する傾向があり、財政基盤は脆弱です。支援をすればするほど、赤字になりますので、安心して、被害者支援を続けるようにファンドレイジングに注力したいと思っております。そこで、寺崎正俊氏（川崎重工元副社長）のご協力を得まして副理事長に就任いただき、企業訪問を中心に資金集めに活動してもらい、成果を上げています。また、当センターの坂口義廣が財務責任者として、ファンドレイジングアドバイザーのジャパングビングの方々と一緒に賛助会費や寄付は勿論、被害者支援型自動販売機の設置、ホンデリングなどさまざまな工夫をして、財政の安定化に努めています。

しかし、まだまだ資金が不足しておりますので、皆様方のより一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

さらに、3つの委員会を立ち上げました。財務委員会、広報委員会、支援・研修委員会です。これには、理事役員の他、事務局員、相談員も所属して活動しています。各委員会の提案により、ニュースレターのカラー化・拡充、クレジットカードによる払い込み取り扱い開始など新しい試みにも挑戦しております。

2019年度の目標としては、遠藤えりな新事務局長の下、支援体制を強化し、支援員・相談員の育成を充実し、関係機関との連携を深めていきます。また、性被害者への支援増加に対する女性弁護士とのパイプづくりを広げていくつもりです。

さらに、広報としてはWEBサイトを活用すると共に、ニュースレターの内容を充実させ、財政基盤については遺贈寄付への取り組み、県下の主要企業、市町村や地元中小企業オーナーへの協力要請などファンドレイジング活動の一層の強化を図りたいと思います。

今後とも、皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。



ひょうご被害者支援センター 副理事長 寺崎 正俊

私が、ひょうご被害者支援センターに関わってちょうど1年が経ちます。

当初、井関理事長の要請に応え、どういう団体か全く中身もわからず参画したのですが、中に入ってよく見ると、実に多くのボランティアの方が、熱心に被害者支援に取り組んでおられることを目の当たりにして、事業の重要性を認識した次第です。

また被害者の方々の言うに言われない辛苦を聞くにつけ、支援センターの大きな役割を再認識いたしました。とりわけ、私に課せられたのが、センターの財政基盤の強化という役割で、現在の支援センターの厳しくなりつつある財政状況を様々な対策を講じて安定的なものにしなければならないということでした。

その後、1年かけて賛助会員を増やすことを目途として、各企業回りや団体訪問を行い、徐々にではありますが、それなりの賛助を得ることができました。今後も県内の企業・団体を中心に訪問し、賛助会員の入会を促進してまいりたいと思っております。

2018年度の財政はクリアされたとはいえ、今後一層日本財団預保納付金の助成金減少などを考えると財政的には非常に厳しく、これから様々な財政対策を講じる必要があります。

難しい課題ですが、支援センターに関わりのある方、理事の皆さんには財政基盤の強化のために賛助会員の確保、寄付金の確保など様々な支援の輪を拡大していただくようお願いいたします。



ひょうご被害者支援センター 副理事長 本多 修

ひょうご被害者支援センターの設立時から理事をしております。心理相談で多くの方と出会ってまいりました。カウンセリングは万能ではないので必ずしもお役にたてるとは限りません。人間は、自分の中にある自己治癒力が働くことで手術の傷が治り、薬の効果も現れるのだと言われていました。心の傷や痛みも自己治癒力が働かなければ、なかなか癒しにつながりません。人を支え、支援する時には、相手の方の自己治癒力が最大限に働くことを期待します。『誰にも語れなかった心の痛みを表現し、それを受け容れてもらおうと自分の中で力が湧いてくるのを感じる』、その時その人の自己治癒力が働き始めたと言えます。

最近は電話相談の内容も複雑で難しくなっています。そこから弁護士相談、裁判支援、さらに心理相談へと支援を続けてゆく時に、相談員も支援員も個々人では微力な存在です。共に支え合うチームの機能があって、はじめてお役に立てると考えております。会員の皆様方にも支えていただきますよう、今後ともよろしく申し上げます。

ひょうご被害者支援センターの活動

私たちは、犯罪・犯罪に類する行為などで被害に遭われた方、そのご家族やご遺族を支援しています。

＜主な活動＞

支援事業

電話相談

面接相談

付き添い等の
直接的支援

支援員養成・研修

被害に遭うと、正しい判断ができなくなることがあります。そんな方のために電話や面接での相談を受け付けています。声に出して話すことで解決の糸口が見つかるはずです。
また、捜査や裁判における付き添い等を実施いたします。

犯罪の多様化、被害者の状況が刻々と変化するなか、適切な対応ができるよう、支援員の養成や研修を実施しています。

広報・啓発活動

広報・啓発

命の大切さを
学ぶ授業

ファンドレイジング

犯罪被害はいついかなる時に遭遇するか分かりません。一人でも多くの方に私たちの活動を知っていただくための活動をしています。

被害者にも加害者にもならない社会づくりのため、「命の大切さを学ぶ授業」を実施しています。

被害者を、地域全体、ひいては社会全体で支えるためのご支援・ご協力をお願いしています。

2018年度 活 動 報 告

電話相談被害種別件数

よりそいは2017年度より

* 一般

種 別	件 数		
	2016年度	2017年度	2018年度
殺 人	19	16	7
強 盗	8	2	4
強 制 性 交 等 罪	84	68	33
強 制 わ い せ つ	62	39	27
その他の性被害	36	35	18
暴 行 傷 害	89	86	106
交 通 事 故	58	45	49
財 産 被 害	15	13	14
D V	133	31	34
ス ト ー カ ー	7	21	41
虐 待	5	5	4
そ の 他	222	296	288
合 計	738	657	625

* 性被害（よりそい）

種 別	件 数		
		2017年度	2018年度
強 制 性 交 等 罪		163	225
強 制 わ い せ つ		39	48
その他の性被害		4	60
D V		3	6
ス ト ー カ ー		3	19
虐 待		9	5
そ の 他		45	63
合 計		266	426

総 合 計 738 923 1051

支援内容別件数

* 一般

付添い先	件 数		
	2016年度	2017年度	2018年度
警 察	10	2	5
裁 判 所	95	53	115
検 察 庁	22	25	33
行 政 窓 口 等	6	3	0
医 療 機 関	1	16	11
弁 護 士 事 務 所	42	27	29
法律相談（無料）	72	98	113
心理相談（無料）	3	2	1
代 理 傍 聴	102	115	110
自助グループ支援	7	7	8
そ の 他	4	1	2
合 計	364	349	427

* 性被害（よりそい）

付添い先	件 数		
		2017年度	2018年度
警 察		1	0
医 療 機 関		1	0
弁 護 士 事 務 所		0	4
法律相談（無料）		7	5
心理相談（無料）		0	0
そ の 他		0	0
合 計		9	9

総 合 計 364 358 436

面接相談種別件数

* 一般

種 別	件 数		
	2016年度	2017年度	2018年度
法 律 相 談（弁 護 士）	71	98	113
心理相談（臨床心理士）	76	72	189
犯罪被害相談員	初回	81	121
	継続	11	5
合 計	239	296	437

* 性被害（よりそい）

種 別	件 数		
		2017年度	2018年度
法 律 相 談（弁 護 士）		7	5
心理相談（臨床心理士）		18	45
犯罪被害相談員	初回	15	18
	継続	0	0
合 計		40	68

総 合 計 239 336 505

事務局長就任にあたって

ひょうご被害者支援センター 事務局長 遠 藤 えりな

4月より、前任の田中実恵子の後をついで、事務局長に就任しました遠藤えりなです。

田中前事務局長は10年にわたりセンターの発展に尽力されました。その後任として、責任の重さを感じています。

私がセンターのことを知ったのは、新聞の電話相談員養成講座の募集記事でした。養成講座を受講するまでは、犯罪といえば、犯人が逮捕されるかどうか、ということだけで、犯罪の被害に遭われた方が、どのような状況にあるのかなど全く知りませんでした。養成講座で、犯罪被害者の方の声を聴き、あまりにも理不尽な現実には衝撃を受け、何も知らなかった自分を情けなく思いました。

電話相談を受け始めた当時は、着信が鳴るたびにドキドキしていたものです。今でも電話を聴く時は全身を耳にしている気持ちでお話を伺いますので、緊張感は消えません。ですが、繰り返し学ぶことで積み重ねてきた経験や知識で、少しでも役に立てればと思っています。コツコツと積み重ねていくことは、誰にでもできることで、支援に携わる者にとってはとても大切なことと思います。

「なりたくて犯罪被害者になったのではない」

「被害者であることはやめることができない」

このような言葉を聴くとき、私たちは何ができるのだろうかといつも考えます。私自身は、相手にも自分にも誠実でいることが支援に大切だと感じています。4月からは全幅の信頼をおける三木相談員が支援局長に就任しました。また、当センターの相談員はそれぞれに知識と経験を持ち、互いに互いを補完し相談できる関係性を築いた、得難い仲間です。相談員と事務局を支える縁の下での力持ちの事務局員とともに、一人一人が力を発揮し役割を果たしていること、自分の価値や自分が誰かの役に立っていることを信じられるようなセンターにしたいと願っています。そんなセンターであることで、被害者支援の質を高め、被害者の方にとって役に立つセンターになれると思っています。

センターで受ける電話相談は30年度には全体で1,000件を超えました。センターの規模は大きくなりましたが、まだまだできていないこと、取り組むべき課題があります。被害者の方の声に応える選択肢をたくさん持つことができるよう努力してまいります。

今後とも、ご支援、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

電話相談員の声



電話相談員として4年目に入りました。目には見えない、電話の向こうの被害者の方に対し、焦らず、慌てず、今どんな状況で、どこからかけて下さっているのか、想像しながら寄り添っています。温かい言葉を心掛け、自分の一言で傷つけることのないように心配りをしています。100人の被害者の方がいれば、100通りの対応があると言われる。受容と共感が必要ですが、主眼は支援だと教わりました。

被害者の方、そのご家族の傷は一生消えることなく、想像以上に傷つき、苦しんでおられます。少しでも被害者の方の傷の痛みを和らげられるお手伝いができるように、微力ながらも頑張っていきたいと思っています。

(相談員 M. M.)

直接支援員の声



被害者やご家族の方が警察や検察庁、裁判所などに行かれるときに、私たち支援員と一緒に行かせていただくことがあります。加害者の逮捕や処罰のために必要なこととはいえ、被害を受けて心身ともに疲弊しきっている時期に捜査や裁判に協力することは、大変なエネルギーのいることです。私たちは、被害者やご家族の方が直面される状況について少しでも学び、経験を積んで、いろんな場面でお手伝いができればと思っています。

刑事手続き以外に、病院や市役所などに付き添わせていただくこともあります。被害にあって生じる問題は生活上多岐にわたります。支援員ができることはほんのわずかですが、少しでもできることをと心がけ、一人で悩まれることのないようにと願っています。

(相談員 M. K.)

❖支援員継続研修

相談員がより知識を身につけ、相談員としてステップアップするための研修です。



弁護士
家木 祥孝

2018年10月28日に支援員継続研修「被害者支援制度を学ぶ～弁護士の被害者支援～」の講師として、弁護士による被害者支援とは何か、又弁護士が支援員の皆様に期待していること等についてお話をさせていただきました。

その中で、受講生の皆様には「弁護士と被害者の方の懸け橋」になっていただくようお願い致しました。

いつも支援員の皆様には、被害者支援活動において「弁護士と被害者との懸け橋」として重要な役割を担っていただいています。

当日の研修では、受講生の皆様からは色々なご質問もいただき、皆様のとても熱心な姿勢が印象的でした。

受講生の皆様とは、今後弁護士と支援員として被害者支援活動に共にあたることができるようになることを期待しております。

❖電話相談員養成講座

電話相談・面接相談、利用できる機関の紹介などの支援活動を行なうボランティア電話相談員の養成講座です。

被害者の方の心を凍らすのが人ならば、溶かすのもまた人の温かい心なのだと教えていただきました。被害者の方の状況や気持ちを想像することが重要だと思いますので、日々精進です！
(相談員 M. G.)

警察、行政など支援の制度が進んできているものの十分でなく、誰にも相談できず困っている被害者の方が多いことを知りました。

支援者は、被害者の方の困っていることを把握し、それに沿った支援ができるように広い知識が必要であると感じました。
(相談員 M. I.)

受講のきっかけは広報誌でした。講座では、最愛の家族を突然亡くされた被害者ご遺族のお話を聴き、言葉を失いました。また、被害者の方やご家族が直面することを学び、被害者支援についてもっと理解を深めたいと思いました。
(相談員 N. T.)



❖直接支援ミーティング

月に1度被害者支援の弁護士と臨床心理士などの専門家に出席いただき、ご指導いただく会議の場です。

直接支援員の研修として、先生方が、相談員の報告について発言されたことを記録することから始まりました。当初は、聞き漏らさないように神経を集中させて記録していました。清書するときに自分の字が判別できず、書き上げるのに時間を労しました。それでも漏れていたたり意味が繋がらなかったりして、相談員に確認していただいていたなんとか文言の体をなす、そんな感じでした。始めは言葉もよく理解できず苦慮していたのですが、代理傍聴などの直接支援に関わらせていただく内に、一つ一つの言葉が聞き取りやすくなり理解もできるようになっていきました。

先生方のアドバイスや質問でのやりとりを聞いているうちに、ポイントがつかめるようになり、支援のあり方などを自分なりに受け止め、理解ができるようになってきました。相談員の方々の支援に対する姿勢にも多く学ぶことができました。また、先生方に支援員として関わらせていただけて、身近にお話を伺う機会ができ、何より感謝しています。ありがとうございました。
(支援員 Y. S.)

広報・啓発活動

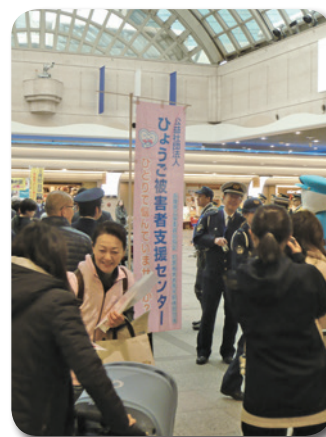
犯罪被害はいついかなる時に遭遇するか分かりません。一人でも多くの方に私たちの活動を知っていただくために警察や関連団体と協働で広報・啓発活動をしています。

❖ビラ配りをして

私の初めの一步はビラ配りでした。県警音楽隊の傍らや不特定多数の往来場所等、環境も手渡す時の感触も様々ですが、相談場所があることを知ってほしい、相談してほしいという思いを抱いて配っています。
(相談員 H. N.)

ビラ配りの際は、いつも反応のあるように、意識に残るようにと思いながら、行っています。思った以上にきちんと見てくれる人は多く、効果の程を感じています。

センターの認知度向上のため、今後も大事にしていきたい活動のひとつです。
(相談員 N. Y.)



神戸駅での広報活動



兵庫県警年頭視閲式における活動紹介と募金活動



グリーフケア（喪失と立ち直りの思いに寄り添う）講座の実施



ノエビアスタジアム神戸の女性化粧室には、1つ1つに「よりそい」相談窓口へのシールが貼られています



検事との合同勉強会



兵庫県警音楽隊広報における活動紹介

命の大切さを学ぶ授業 活動報告

～被害者にも加害者にもならない社会づくりのために～

犯罪被害に遭われた方への理解を深めるために、ひょうご被害者支援センターは兵庫県警察本部との共催で県内の中学生・高校生を中心にかけがえのない命について、友達や家族と真剣に考える機会をお届けしています。授業には犯罪被害者ご遺族による講話や当センター相談員によるデジタル紙芝居と手記の朗読が行なわれるものがあります。生徒の皆さんから「周りの人をもっと大切にしたい」「毎日悔いなく生きていきたい」などの感想が寄せられています。

犯罪被害者ご遺族による授業	受講生	
猪名川町立六瀬中学校	全校生	71名
私立神戸星城高等学校	1年生	434名
上郡町立上郡中学校	全校生	145名
兵庫県警インターンシップ	大学生など	30名
三田市立上野台中学校	全学年	132名
神戸市立竜ヶ台中学校	全学年	198名
私立神戸国際大学附属高等学校	3年生	245名
私立神戸村野工業高等学校	2年生	491名
上郡町立上郡中学校	2年生	145名
兵庫県立摩耶兵庫高等学校	1年生	131名
三田市立狭間中学校	全校生	380名

センター相談員による授業	受講生	
神戸市立星和台中学校	全校生	314名
神戸市立鶴台中学校	全学年	183名
神戸市立太田中学校	1年生	153名
加古川市立浜の宮中学校	3年生	296名
神戸市立原田中学校	1年生	106名
神戸市立鈴蘭台中学校	2年生	147名
神戸市立駒ヶ林中学校	1年生	68名

合計受講生 計3669名

※どの授業にも、兵庫県警より被害者支援の実情のお話を含みます。

◇年度別実施校数・人数

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
校数	5校	20校	21校	22校	29校	22校	27校	25校	16校	18校
総人数	2,250名	4,600名	6,600名	8,359名	6,920名	5,291名	7,457名	8,521名	5,651名	3,669名

合計205校 延べ59,318名受講



神戸市立中学校校長

ご遺族の方のお話は生徒の心に響き、さまざまな感想が出てきました。それらをフィードバックすることで、互いの感じ方の違いを知り、認め合う機会ができ、学校は落ち着いた状況を取り戻し暴力に訴えるような子供が殆どいなくなりました。

授業風景



神戸市立竜ヶ台中学校



三田市立上野台中学校



加古川市立浜の宮中学校

生徒の声



今日、命の授業を受けて気づかされたことは、あたり前の毎日なんてものは無いということです。もしかしたら明日、一分後、一秒後に友人が、家族が、それか自分が亡くなってしまうかもしれない。自分はこれから、毎日を大切に家族や友人を大切に生きていこうと思いました。また、今日の授業で「死ぬ」や「殺すぞ」とか言う言葉は怖いと言っていたのを聞いて、僕はよく腹が立った時に言ってしまったりします。自分は、身内や知人が事故で亡くなった人がいないので、そういった言葉の恐怖だとかが全く分かりません。ですが、今回この話を聞いて、そういった言葉の重さに気づかされました。僕はそういった言葉を絶対言わなくできるとは言い切れませんし、思いません。ですが、今日の話を聞いて少しは変えていこうと思う心を僕らが一人でも多く持つことができれば、そういった言葉を少しは減らすことは不可能ではないと思います。今日は僕らに生命の授業をして下さって本当にありがとうございました。

(高2 男子)

私は、家族や友達のことが一番頭に浮かんで来て、たしかに、いつもは「うざい」と感じることもあり、今朝もけんかをしてしまいました。でも「死んでしまっただけで会えなくなる」そう考えた時に、自然と涙が出てきました。私は前で感想を言わせていただきましたが、その時も涙をこらえるのに必死で上手に言えてなかったかもしれません。すみませんでした。でも、涙を流せるのは、それほど家族や友達が大切な存在なんだなと思いました。朗読をしていただいた時は、被害者の方と残された家族の方々の気持ちがとても伝わってきました。「クールダウン」この言葉は、頭に残しておきたいと思います。私は双子でよくけんかをするけど、これからは減らしていきたいです。お母さんにいつも「せっかく2人いっしょに生まれたんだから、おたがいを大事に」と言われています。だからもっともっと大事にしたいです。今日は本当にありがとうございました。周りの人をもっと大切にしようと思えることができました。また、自分の命と、加害者にならないことも心にとめておきたいです。

(中2 女子)



教師の声



講師の坂口さんの話を聞き、犯罪被害者やその家族の思いを少しだけ知ることができた。おそらく坂口さんが声に出して伝えられないこともたくさんあると思います。でも、その中でも自分の心の中にグサグサと突き刺さるようになってきました。家族を失う悲しみは、失った者にしか分からないことは多いと思うけれど、思いを伝えていただくことで、命について家族についての思いが深まったと思います。今まで知らなかった犯罪被害者遺族の苦しみや怒りや悲しみを知ることができたことは貴重でしたが、それより命の大切さ、家族の大切さを改めて考えることができたことが、なにより大きかったです。子どもたちの命や安全を預かり未来を預かっている者として、一人一人の未来の姿を想像しながら、その責任を果たしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

(44歳 男性)

デジタル紙芝居や朗読を担当させて頂いております。中学生の皆様には、少し重い内容かな？と心配していましたが、皆真剣に耳を傾けてくれるのでとてもうれしく、やりがいがあります。アンケートの感想には、被害者の方の気持ちを一生懸命理解しようとしているのが伝わってきます。私自身も加害者にならないように気を付けて、クールダウンを日頃から心がけるようになりました。もっともっと開催していただける学校が増えるとういのにあと思います。



センター講師

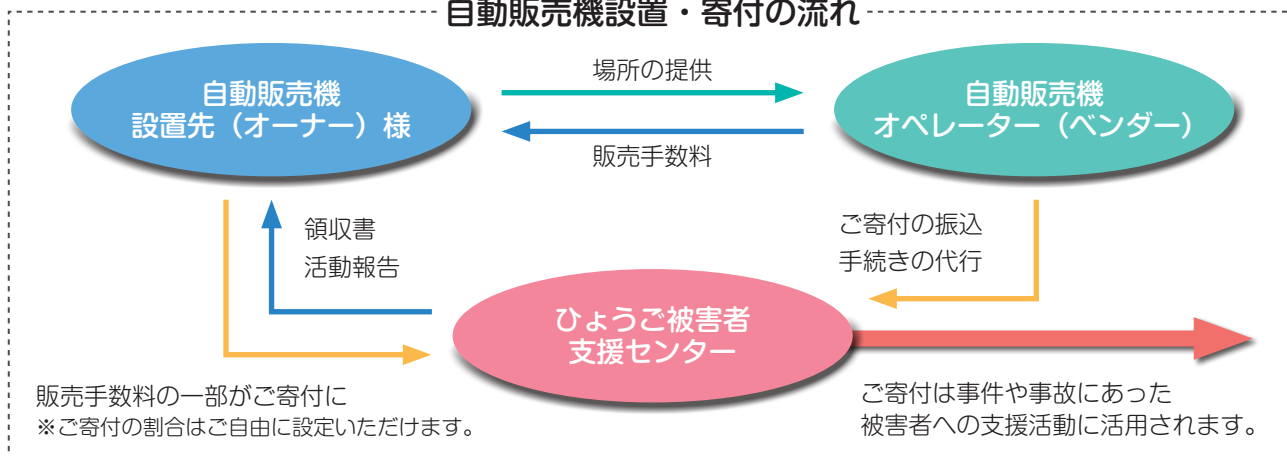
ファンドレイジング

被害者を、地域全体、ひいては社会全体で支えるためのご支援・ご協力をお願いしています。

被害者支援型自動販売機設置

ドリンク購入ごとに売り上げの一部がひょうご被害者支援センターへのご寄付になる募金自販機です。

自動販売機設置・寄付の流れ



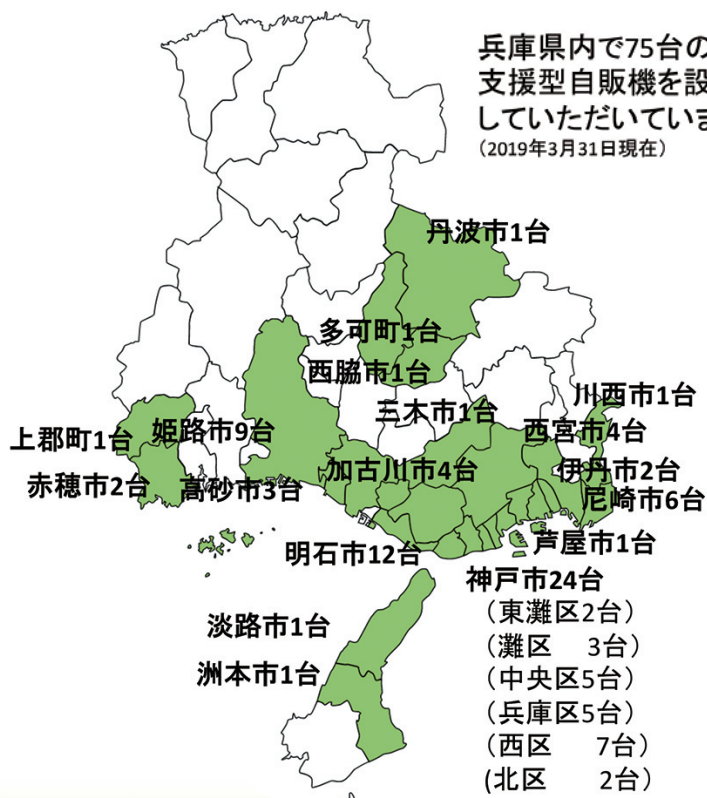
◆ 2017年4月～2019年3月のご協力先 ◆

IBP協同組合*
明石土建工業 (株)
(株) あかつき神戸営業所*
(株) あかつきBPセンター*
赤穂自動車教習所
アサヒ飲料 (株)
アサヒ物産 (株)*
尼崎信用金庫職員生活協同組合
淡路ヤクルト販売 (株)
淡路ワールドパークONOKORO
(株) 伊藤園
(株) 伊藤テック
石見サービス (株)
(株) 奥村組
金井自動販売 (株)
(株) カネカ
中華旬彩 華鳳*
(株) 加美乃素本舗
関西麒麟ビバレッジサービス (株)
関西建設工業 (株)
国津商事 (株)
神戸スタンダード石油 (株)
神戸星城高等学校
神戸ドライビングスクール*
神戸西インター自動車学校*
神戸日野自動車 (株)
神戸ヤクルト販売 (株)*
コカ・コーラボトラーズジャパン (株)
コベルコ教習所 (株)
(有) 小山サービス*
三久食品 やなぎや
サントリービバレッジサービス (株)
飾磨海運 (株)
(株) ジャパンビバレッジウエスト
(社福) 正心会 さぎそう園
セキスイハイム山陽 (株)
(株) タイガー
ダイドービバレッジサービス (株)
多木化学 (株)
(株) 田村組
(有) 辻本自動車工業所*
NPO法人西播磨サッカー協会

西脇自動車教習所*
日新自動車運送 (株) 長洲倉庫*
日本製鐵 (株)
日本装路 (株)*
(株) ハーモニックス*
ハイクラスドリンク (株)*
パレス神戸
日笠工業 (株)
(一財) 姫路市まちづくり振興機構
兵庫県印刷工業組合*
兵庫県警察本部
(学) 兵庫県自動車学校 西宮本校
(学) 兵庫県自動車学校 明石校
(学) 兵庫県自動車学校 姫路校

兵庫県立武道館
兵庫ヤクルト販売 (株)
平野カーゴ(株)*
(株) 北海
(株) ホテルニューアワジ
松原運輸 (株)
マリン薬局
武庫川自動車学園
武庫川女子大学
宗像建設 (株)
ヤスダ産業 (株)
(株) ユカ*

※ 2018年度の
新規ご協力先様



「ホンデリング」

～本で支援の輪（リング）が広がってほしい、という願い～

読み終わった不要な本、CD、DVDは、ひょうご被害者支援センターへのご支援につながります。

ホンデリングの お申込方法

① 読み終わった不要な本、CD、DVDを段ボールや紙袋に詰めます。

② 「贈与承諾書」にご記入の上、本と一緒に入れます。

③ 買取業者「株式会社バリューブックス」にお電話いただき、「ホンデリングに申し込み希望」とお伝え下さい。

【申込先】

株式会社バリューブックス

電話 0120-826-295

電話受付時間 月～土 10:00-21:00
日 10:00-17:00

※「贈与承諾書」は事務局(078-362-7512)にお申し付け下さるか、ひょうご被害者支援センターのホームページからダウンロードしてください。

2013年8月以降の累計実績：総冊数 57,619冊、寄付金額 1,305,643円

◆参加者の声：関西福祉大学図書館◆

関西福祉大学図書館では、犯罪被害にあった方々への支援活動に参加したいと考え、2015年度から



「ホンデリング～本でひろがる支援の輪～」活動に取り組んでいます。

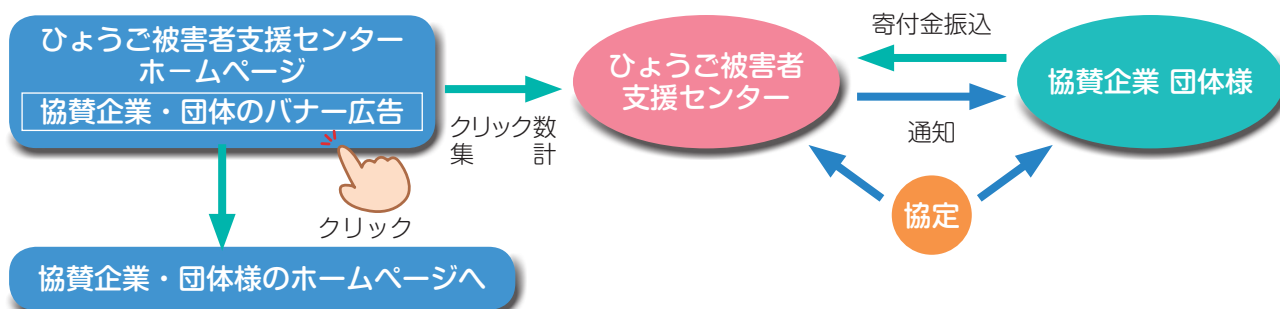
活動は、毎年、大学祭イベントのひとつとして「古本掘り出し市 with 赤穂高等学校図書部（協力：赤穂警察署・赤穂市民病院）」を実施するにあたり有志より収集する図書資料の一部を寄付するというものです。2018年度も古本市を開催し、図書1,250点を寄付することができました。

今後もこの活動が草の根となって広がるよう微力ながら支援してまいりたいと思っています。

クリックで広げよう！ 被害者支援の輪！

ひょうご被害者支援センターのホームページにバナー広告を掲載いただきそのバナーへのクリック数に応じ、ひょうご被害者支援センターに寄付する仕組みです。ひょうご被害者支援センターのホームページ閲覧者が貴社・貴団体のバナー広告を1回クリックするごとに10円をセンターに寄付としていただきます。1企業・団体の寄付は1か月当たり3千円が上限で年に一度合計額で振込んでいただきます。お問合せ・お申込みは事務局まで。

◆ワンクリック募金の仕組み◆



◆参加事業様の声：兵庫トヨタ自動車株式会社◆

自動車販売会社の責務として交通事故撲滅を目指し、様々なかたちで地域社会に貢献してまいります。ワンクリック募金を通じて、被害者支援活動の輪が社会全体に広まることを願っています。

団体賛助

(株)あかつき
赤穂地区警察官友の会
(株)アベックス西日本
(株)アシックス
(一社)芦屋カンツリー倶楽部
阿比野建設(株)
(株)アップル
尼崎信用金庫
(株)尼信経営相談所
尼新実業(株)
尼信情報システム(株)
尼信ビジネス・サービス(株)
尼信ビル(株)
尼信保証(株)
尼信リース(株)
(株)伊藤テック
印南養鶏農業協同組合
(一社)いのちを織る会
岩岡自動車(株)
岩見印刷(株)
(医)内海慈仁会 姫路北病院
大阪富士工業株式会社
(有)おはたま本舗
加古川地区企業防犯協会
(株)カネミツ
(株)加美乃素本舗
川崎重工業(株)
川崎エンジニアリング(株)
(株)カワサキモータースジャパン
川崎油工(株)
(株)カワサキ ライフ コーポレーション
カワサキロボットサービス(株)
川重原動機工事(株)
(株)川重サポート
川重車両コンボ(株)
川重車両テクノ(株)
川重商事(株)
関西電力(株)兵庫支社
共栄印刷(株)
近畿工業(株)
近畿システム管理(株)
(一財)敬愛まちづくり財団
(株)ケイキャリアパートナーズ
(株)ケイテック

皇漢堂製薬(株)
工成建設(株)
(一財)甲南会
神戸北ロータリークラブ
(株)神戸商工貿易センター
(株)神戸製鋼所
神戸電鉄(株)
神戸西地区警察官友の会
(株)神戸風月堂
三宮センター街2丁目商店街振興組合
三宮センター街3丁目商店街振興組合
三田運送株式会社
山陽バス(株)
シスメックス(株)
(株)シマブンコーポレーション
ジャパンオンライン(株)
神姫バス(株)
(株)神鋼環境ソリューション
(有)新成警備保障
(株)親和福祉会
(株)スリーエス
(株)セブレ24
(株)大栄
宝塚警察署 宝和会
高羽財産区管理会
(株)灘印刷
灘薬剤師会
ニシカワ食品(株)
(公社)西脇・多可シルバー人材センター
(株)日興商会
(株)服部
花田神経内科クリニック
(株)ハマダ
(株)濱本ジェネラルコーポレーション
日笠工業(株)
姫路信用金庫
(株)兵栄
兵庫県警察信用組合
兵庫県警察本部 警務課 幹部会
兵庫県警察本部 捜査第一課
(一社)兵庫県指定自動車教習所協会
(学)兵庫県自動車学校
(一社)兵庫県道路標識標示業協会
兵庫トヨタ自動車(株)

(一社)兵庫県トラック協会
(株)藤橋商店
(公財)復光会 垂水病院
ベニックスソリューション(株)
(公財)暴力団追放兵庫県民センター
(株)マルフク
三木市
ヤスダ産業(株)
UCCホールディングス(株)
(有)リサーチ兵庫
(株)ロック・フィールド
六甲バター(株)
(一財)兵庫県交通安全協会
網干交通安全協会
須磨交通安全協会
垂水交通安全協会
加東交通安全協会
兵庫県 警友会
警友会 生田支部
警友会 加古川支部
警友会 加西支部
警友会 神戸水上支部
警友会 神戸西支部
警友会 宍粟支部
警友会 須磨支部
警友会 洲本支部
警友会 高砂支部
警友会 垂水支部
警友会 豊岡支部
警友会 長田支部
警友会 姫路支部
警友会 美方支部
(公社)兵庫県防犯協会連合会
網干防犯協会
尼崎北防犯協会
淡路防犯協会
伊丹防犯協会
加東防犯協会
須磨防犯協会
洲本防犯協会
豊岡防犯協会
長田防犯協会
西脇多可防犯協会

ほか匿名

団体寄付

赤穂地区警察官友の会
尼信かなめ会
(一財)尼信地域振興財団
有馬交通安全協会
有馬防犯協会
生田防犯協会
出石防犯協会
うはら工場防犯協会
川重マリンエンジニアリング(株)
韓国民団 兵庫県本部
神戸市佛教婦人連合会
(株)神戸新聞社
国際ソロプチミスト但馬
コベルコ教習所(株)
ジャパンオンライン(株)
須磨寺
垂水自家用自動車協会
垂水駐車場協会
テーマスの会
ドマーニ神戸クリニック
灘区歯科医師会
日本労働組合総連合会 兵庫県連合会
(株)延田エンタープライズ
パナソニックエコテクノロジーセンター(株)
姫路交通安全協会
姫路合同貨物自動車(株)
(一財)兵庫県警察協会

(一社)兵庫県道路標識標示業協会
兵庫トヨタ自動車(株)
兵遊協福祉基金
まや鋼業(株)
三輪運輸工業(株)
養父市役所 市民課
和田興産(株)
兵庫県警察本部
・明石運転免許更新センター
・運転免許課
・機動パトロール隊
・警務課
・警務課 幹部会
・県民広報課
・交通機動隊
・神戸優良・高齢運転者運転免許更新センター
・生活安全企画課
・捜査第一課
・総務課
・但馬運転免許センター
・鉄道警察隊
兵庫県警察学校
東灘警察署
葺合警察署
生田警察署
長田警察署
須磨警察署

垂水警察署
神戸水上警察署
神戸西警察署
有馬警察署
芦屋警察署
西宮警察署
尼崎南警察署
尼崎東警察署
尼崎北警察署
伊丹警察署
宝塚警察署
篠山警察署
明石警察署
三木警察署
小野警察署
加西警察署
西脇警察署
加古川警察署
姫路警察署
網干警察署
赤穂警察署
宍粟警察署
朝来警察署
豊岡南警察署
豊岡北警察署
洲本警察署

ほか匿名

感謝

ご寄付をいただきました

一般財団法人尼信地域振興財団様は社会貢献活動を通じ、永年にわたり地域のコミュニティ活動や文化事業など幅広い活動を支え、地域社会の振興発展づくりに尽力されています。



写真左から 尼崎信用金庫 作田理事長 橋本会長
センター 井関理事長

尼信かなめ会様は尼崎信用金庫様のお取引先を中心とした組織で、会員相互の親睦と事業の発展及び地域社会への貢献に寄与することを目的にしております。



写真左から 尼崎信用金庫 作田理事長
尼信かなめ会 大島会長
センター 井関理事長
尼崎信用金庫 橋本会長

兵庫協福祉基金様は、人と人との絆をより強くし、良い社会づくりを進めることを目的に、幅広く社会貢献活動を展開されています。



写真左 兵庫県遊技業協同組合 甚田専務理事
写真右 センター 井関理事長

延田グループ様は、幸せで希望に満ちた明るい社会づくりのため、地域との調和に努め、幅広く、社会貢献活動を展開されています。



写真左 株式会社 延田エンタープライズ 桜井執行役員
写真右 センター 井関理事長

正味財産増減計算書 (2018年度：2018年4月1日～2019年3月31日)

収 入

(単位：円)

勘定科目	2016年度	2017年度	2018年度	前年度比
正会員受取会費	695,000	740,000	685,000	-55,000
個人賛助会員受取会費	369,000	352,000	507,000	155,000
団体賛助会員受取会費	3,420,000	3,000,000	3,310,000	310,000
事業収益	2,182,740	2,036,261	2,074,970	38,709
受取補助金等	8,396,000	13,070,740	9,104,290	-3,966,450
受取委託金	5,033,000	11,269,384	10,358,568	-910,816
受取寄付金	4,715,981	11,539,343	6,414,416	-5,124,927
雑収入	8,988	8,526	7,828	-698
小 計	24,820,709	42,016,254	32,462,072	-9,554,182
正味財産期首残高	10,750,438	11,400,513	18,600,983	7,200,470
合 計	35,571,147	53,416,767	51,063,055	-2,353,712

支 出

(単位：円)

勘定科目	2016年度	2017年度	2018年度	前年度比
事業費	15,834,295	25,747,855	24,087,663	-1,660,192
管理費	8,336,339	8,865,260	8,685,251	-180,009
固定資産除却損	0	202,669	0	-202,669
小 計	24,170,634	34,815,784	32,772,914	-2,042,870
正味財産期末残	11,400,513	18,600,983	18,290,141	-310,842
合 計	35,571,147	53,416,767	51,063,055	-2,353,712

当センターへの賛助会費・寄付金は所得控除、税額控除の対象になります

貸借対照表 (要約) (2018年度：2018年4月1日～2019年3月31日)

資産の部

(単位：円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年度比
流 動 資 産	11,269,169	4,757,161	5,154,817	397,656
固 定 資 産	289,109	14,018,623	13,716,765	-301,858
資 産 合 計	11,558,278	18,775,784	18,871,582	95,798

負債・正味財産の部

(単位：円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年度比
流 動 負 債	157,765	174,801	581,441	406,640
正 味 財 産	11,400,513	18,600,983	18,290,141	-310,842
負債・正味財産合計	11,558,278	18,775,784	18,871,582	95,798

◎2018年度の概要説明

2018年度は、付添い支援や法律相談・面接相談の活動が増加したことから、事業費は24百万円を計上、管理費は8.7百万円の横ばい推移で、支出総額は32.8百万円となりました。

収入は個人賛助、団体賛助会員は順調に増加、寄付金は2017年度には単発大口寄付（6百万円）がありましたので、実質的には微増となっています。

受取補助金は、2017年度における事務所移転に伴う助成金を除けば、ほぼ横ばいの推移でした。

正味財産は、31万円の減少となっていますが、資金の収支計算で見た場合、収支はほぼ均衡しています。

◎今後の課題

ひょうご被害者支援センターの認知度の向上とともに、支援件数は今後も増加が予想されます。十分な支援活動を継続するためには、一層の財源確保が必要です。

大きな収入源でありました日本財団の預保納付金は、2019年度には7.3百万円の助成が見込まれるものの、2020年度以降には大幅な減額が予想されています。従って、自主財源の強化が大きな課題となっています。

身近にできる社会貢献活動

❖ ポスター掲示

県民の皆様に、センターのことを知っていただくため、ポスター掲示にご協力をお願いします。例えば町内の掲示板や公共の建物、ご自宅の外壁等で、団体・個人を問いません。
サイズをご確認の上、事務局へ連絡いただければ送付いたします。

ポスターサイズ（単位mm）
大=A2版（縦594×横420）
中=B3版（縦515×横364）
小=A4版（縦297×横210）



「よりそい」のポスターは中・小サイズのための扱いとなります。

❖ ホンデリング

～本で支援の輪（リング）が広がってほしいという願い～
読み終わった不要な本、CD、DVDを「贈与承諾書」と共に梱包。

買い取り業者 「株式会社バリューブックス」

☎ 0120-826-295

にお電話いただくと、ご指定の時間に宅配業者が集荷に伺います。
買い取り業者にて、送付いただいた本を査定し、その金額がひょうご被害者支援センターに寄付されます。

※「贈与承諾書」は事務局（078-362-7512）にお申し付け下さるか、ひょうご被害者支援センターのホームページからダウンロードしてください。

❖ クリック募金

ひょうご被害者支援センターのホームページにバナー広告を掲載いただき、バナーへのクリック数に応じてご寄付をいただいています。

❖ 社会貢献型自動販売機

清涼飲料の売上の一部が社会貢献活動への寄付になる自動販売機です。地域住民や社員・職員など誰もが使う機会のある身近な自動販売機で社会貢献に取り組むことができます。

❖ 募金箱の設置

募金箱の設置をしていただけるお店や企業のご協力をお願いしています。
県民の皆さまが募金にご協力いただくことにより、被害者支援活動に貢献し、被害者の方々の支援をすることになります。

◎ 賛助金、寄付金のお支払いにクレジットカードがご利用できます

賛助金、寄付金は付き添いや支援員の育成費用など、被害に遭われた方やそのご家族・ご遺族をサポートしていくための事業に活用しています

賛助会員 (年会費)	個人 一口 1,000円 (何口でも可)	払込先 [口座名義] 公益社団法人 ひょうご被害者支援センター ①三井住友銀行 兵庫県庁出張所 普通預金 3284322 ②ゆうちょ銀行 00940-7-305791
	団体 一口 10,000円 (何口でも可)	
寄 付 金	寄付金はいくらからでも結構です	

●賛助会費・寄付金は所得控除、税額控除の対象になります。

※銀行口座へのお振込みや、クレジットカードでのお支払は、ホームページ【ひょうご被害者】Q 検索 より手続きをお願いします。

遺贈寄付についての無料相談を開始しました

私の遺産、父母の遺産の一部を犯罪被害者やそのご家族の支援活動に活かしたい。

そんなあなたの想いを、ひょうご被害者支援センターにお気軽にご相談ください。

【遺贈寄付とは】

遺贈とは、「遺言」によって遺産の一部またはすべてを相続人以外の者や団体に無償で譲ることをいいます。そのうち「寄付」として行われるものは「遺贈寄付」と呼ばれご自分の想いを未来に託す寄付のかたちです。

公益社団法人 ひょうご被害者支援センター電話相談 祝日・8/12～16・12/28～1/4は除く

犯罪被害全般

性被害専用 ひょうご被害者ケアセンターよりそい

なやみみんなで
☎ 078-367-7833
火・水・金・土 午前10時～午後4時

なやみなし
☎ 078-367-7874
月・火・水・金・土 午前10時～午後4時



発行日：2019年6月
発行者：公益社団法人
ひょうご被害者支援センター
事務局：TEL 078-362-7512
URL：https://supportthyogo.org

編集
後記

「ホンデリング」・「被害者支援型自動販売機の設置」など、支援の輪がどんどん広がっていることを実感します。被害者支援センターの活動を理解し、支えてくださる多くの皆さまがいることに、私たちは勇気をもらい、日々の活動に邁進できるのだと思います。